



全農長野県本部情報／グリーン レーダー Vol.469

Contents

JA改革 中期事業計画（平成28～30年度） 自己改革の進捗状況について 1～3

A-Policy 重点事業方針

- ・平成30年度 生産販売部事業方針
- ・平成30年度 畜産酪農部取り組み方針
- ・平成30年度 農業生産用燃料（軽油）支援対策の実施について

A-Reports／

- ・協同経営SS新人スタッフ研修会 6
- ・新設の京都市中央食肉市場で「信州和牛枝肉共励会」開催... 7
- ・県産農畜産物で御嶽海関を応援 7
- ・長野県体育協会に長野米3トンなどを寄贈 8
- ・小学生の卓球大会に副賞提供..... 8
- ・小学生のサッカー大会副賞に長野米を提供 8

新採用職員紹介 9

A-Board／「信州の果実」表紙写真を募集中！ 9

- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・6月の動き 10
- ・6月のラジオ番組表 10
- ・編集後記..... 10

自己改革の進捗状況について

全農長野県本部は、JAおよび子会社とともに、JA自己改革の進展を加速化させ、農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 【自己改革における重点施策】 平成30年3月末時点での総括

その1▼営農支援体制の充実《担い手に対する出向く体制強化および労働力確保》

(1)出向く体制強化はJA担い手別対応方針および担い手支援システム導入について全JAと協議しました。品目別や地区別の研修会を通じて若手・中堅営農指導員のレベルアップをはかりました。労働力確保については、「長野県」として特区申請中であり、国の審査結果により今後の対応をすすめます。

(2)JAと一体となった提案型推進や商品ラインナップの拡充により、水稲超大型規格農薬では大幅な利用拡大（計画面積比23.2％）となりました。担い手ニーズへの対応として、農家戸別銘柄肥料（BB「わたしの肥料」）の利用拡大、肥料・農薬の県本部拠点直行配送拡大等に取り組みました。

(3)畜産・酪農では、空舎を利用した生産農場を1農場稼動し、県本部生産農場での素畜供給拡充、JAと一体となった営農指導の強化等と併せ、生産基盤の維持確保に取り組みました。

その2▼農業所得の増大《JA・県域による販売力強化とコスト削減》

(1)農業所得増大に向け、徹底した計画生産・適正生産に取り組むとともに、多様な生産者ニーズに対しての各品目における販売企画提案を展開しました。また、積極的な消費宣伝活動（対面宣伝会・延べ約6,997回実施）を行うとともに、総合宣伝の発信力強化による長野県産農畜産物のブランド強化に努めました。

(2)生産資材は、コスト低減や販売力強化に資する付加価値の向上等、農家・JAのニーズに応える製品開発・普及提案を実施しました。農業機械では、トラクター等の県域推奨型式を新たに2型式設定し重点購買メリットの拡大をはかるとともに、低コスト利用形態としての県域レンタル事業の普及・推進に取り組みました。

その3▼ライフラインの充実《地域の生活基盤整備》

(1)地域のライフラインを維持しつつ収支改善に取り組むために、SSについては、JA別SSマスタープランの見直し協議を実施しました。またJA生活事業拠点への将来的な物流体制の協議を行いました。

(2)宅配・配置家庭菜においては、宅配の「おまかせコース」メニュー再編やJAと連携した利用者拡大キャンペーン等の実施により事業量の維持と事業収支の改善に取り組みました。

【生産販売部】

実行具体策

29年度計画

3月末進捗状況

達成度合いと今後のすすめ方

1. 生産基盤の維持・拡大

(1)多収穫・省力栽培による規模拡大 ①コギクの生産拡大 ②加工業務用野菜の拡大推進	①246万本 ②キャベツ1,200t	①186万本 ②キャベツ1,141t	①大幅な生育遅れによる減収のため計画未達。生産体系を見直し振興を継続する。 ②機械収穫試験を実施した。次年度に向け単収向上対策（排水対策など）および計画生産の推進をはかる。
(2)計画・適正生産の推進 ①リンゴ早生種（長果25等）早期産地化 ②夏ハクサイの適正生産 ③レタス生産力維持	①新規1万本 ②220万ケース ③1,300万ケース	①1.2万本 ②252万ケース ③1,380万ケース	①生産計画にもとづき県内8JAへ苗木供給。 ②数量抑制の啓発と作期変更および作物転換をすすめる。 ③秋作の作柄安定対策と売り先の確保をすすめる。

2. 集出荷対策の向上

(1)多様な生産者（大規模農家・法人・系統外含む）への販売企画提案	果実／新規2件 野菜／新規2件 花き／新規2件 きのこ／新規2件	果実／新規2件 野菜／新規3件および取組者大幅増 花き／新規1件 きのこ／新規2件	■果実／販売提案を開始（1生産者グループ）。苗木供給後、栽培研修会を開催（1生産者グループ） ■野菜／業務用キャベツ1件、ジューズ用トマト2件で新規取り組み。省力化を目的とした業務用きゅうり取組生産者の拡大ができた（H28／6名→H29／45名）。 ■花き／アルストロメリアで1件新規開始。次年度3件で規模拡大予定。 ■きのこ／えのき・ブナシメジのカット商品の取り組み2件実施。
-----------------------------------	---	--	--

3. 商品提供力の強化

(1)多様な販売手法への取組 ①リンゴ長期貯蔵販売の拡大	①15,000コンテナ	①15,800コンテナ	長期保存に向けた1-MCP処理ならびに冷蔵庫へ入庫。冬～春販売用で生協・量販店へ販売を実施した。
(2)加工・業務需要、輸出事業への対応強化 ①リンゴ輸出専用栽培の推進	①検討	①防除体制を検討	県と連携し、防除体系見直しを検討。次年度以降、取り組みの整理を行う。
(3)総合品目宣伝による認知度向上	実施	実施	品目共通資材を統一した。HP・SNSを活用する中で、さらなる効果的な情報発信・運用体制を構築する。

4. JA・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化

(1)集荷重量	77,000t	72,264t	概算金単価アップ、集荷奨励等を通じて、出荷契約数量を上回る集荷を推進する。
---------	---------	---------	---------------------------------------

II. 各事業別 平成30年3月末進捗状況

【JA長野県営農センター】

実行具体策

29年度計画

3月末進捗状況

達成度合いと今後のすすめ方

1. 中心的担い手の育成・支援

(1)JAと県域の出向く体制整備	全JA	全JA	担い手支援システム導入をすすめる。
(2)労働力確保情報交換会等の開催	4回	0回	2月に県域として国へ再度、特区申請中。国の審査結果待ち。

2. 営農指導体制の強化

(1)担い手アンケートにもとづく指導体制強化	9JA	4JA	本年度は、4JAについて改善計画策定をすすめた。
(2)品目別ボトムアップ研修会開催（受講者数）	花き研修	花き研修4回	10月～1月に4回実施。
(3)指導者会議 ブロック別検討会開催	20回	68回	積極的な取り組みにより計画達成した。

3. 栽培技術等によるコスト削減推進

(1)リンゴVFM・9及びフェザー苗の生産供給	55千本	55千本	リンゴフェザー苗の生産供給を継続推進する。
(2)業務用多収穫省力化技術研修会開催 ①供給先別果樹多収穫技術研修会 ②業務用野菜栽培技術研修会	①2回 ②3回	①2回 ②2回	①りんご高密植わい化栽培研究会の開催 ②キャベツ機械収穫一貫体系の実践検証。

4. 安全・安心な信州農作物の生産・供給

(1)残留農薬自主検査の実施	1,700検体	1,652検体	計画どおり検査をすすめた。
(2)トレース産地条件の整備と推進	調査・検討	調査の実施	トレースフォワードの検査・検討をすすめる。

【生産購買部】

実行具体策

29年度計画

3月末進捗状況

達成度合いと今後のすすめ方

1. 販売と連携した包材の開発普及

(1)段ボール原紙アイテムの集約（累計アイテム数）	累計6アイテム	累計6アイテム	小ロットアイテムを使用している段ボールの規格集約を今後もすすめる。
(2)流通から小売までの潜在的ニーズを捉えた包装資材の開発	累計5JA	累計5JA	採用した包装形態を他JAにも提案するとともに、新たな開発普及の取り組みも行う。

2. 肥料農薬の担い手推進

(1)「わたしの肥料」の拡大	2,600t	3,105t	野菜産地で需要増。担い手推進の主要なツールとしてJAと一体的に活動する。
(2)BB肥料工場・農家直行方式の拡大（単肥との積み合せ配送）	2,300t	2,576t	わたしの肥料を中心に拡大。現状はBB肥料が大半だが、単肥積み合わせも推進する。
(3)担い手向け超大型規格農薬のメーカー・農家間直送の提案推進	水稻剤600ha 茎葉除草剤800L	水稻剤1,394ha 茎葉除草剤1,000L	商品ラインナップを拡充、担い手農家へのJAと一体的な提案推進により、計画を大幅に上回った。（実績は29年産）

3. 農機コスト低減の取り組み

(1)トラクター等の県域推奨型式設定による取扱重点化	累計3型式	累計3型式	県域推奨型式研究委員会で協議し累計3型式を設定。3月末供給台数は、1号機（トラクター20PS）64台、2号機（トラクター25PS）6台、3号機（畦草刈機）269台。次年度は新たに2型式の設定を検討する。
(2)中古農機の流通促進、レンタルの事業化	中古成約20台 県域実施4JA	中古成約20台 県域実施2JA	JAMネット2nd中古成約20台（3月末）。「不要農機査定・買取」の取り組み拡大に向けJAへ業務体系の周知をすすめる。県域レンタル事業はトラクター、キャベツ収穫機を上と規模拡大に寄与する機種取得と貸出推進に取り組む。

【畜産酪農部】

実行具体策	29年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後のすすめ方
1. 生産基盤の維持確保			
(1) 空舎利用による生産農場の稼働	2農場	1農場稼働	1農場についてはJ Aと協議・検討し準備をすすめる。
(2) 生乳出荷量の確保	100,000t	93,438t	性別別精液の活用促進により後継牛確保を推進する。
2. 信州産ブランドの確立			
(1) 信州プレミアム牛肉の販売促進	2,300頭	2,183頭	和牛素牛価格高騰により導入頭数の減少。今後、空舎利用および集荷強化による頭数確保に努める。
(2) 特色ある「信州産」牛乳・乳製品の商品開発・販売	企画・実施	新CM製作・放映	「信州の牛乳」新CM放映拡大と資材の活用によりPR活動を強化する。
3. 飼料用米の流通体制の確立			
(1) 流通数量	1,500t	1,748t	次年度に向け、地域の实情に応じた推進方策を検討する。
4. 地域畜産酪農センターの設置			
(1) 進捗状況	2箇所検討	2箇所検討	地域の实情にあつた設置を目指す。
5. 県本部生産農場の素畜供給機能拡充			
(1) 素牛販売頭数(二岳牧場)	70頭	47頭	優良血統繁殖牛の県内保留をすすめる。
(2) 素子豚供給頭数(SDF豚繁殖センター)	21,800頭	20,489頭	業務体制の検討と離乳子豚管理の徹底により事故率を減少させる。
(3) 初妊牛上場頭数(ハケ岳牧場)	20頭	13頭	性別別精液利用による初妊牛生産拡大をはかる。

【生活部】

実行具体策	29年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後のすすめ方
1. 石油取扱数量の確保			
取扱数量	308,100㎩	331,086㎩	灯油および揮発油の特別対策を実施し、計画を達成した。30年度も系統結集に向けた推進に取り組み、農業生産用燃料支援の対象品目に配達軽油を追加する。
2. ガス取扱数量の確保			
取扱数量	18,700t	19,366t	供給戸数減少の中、戸当り消費量の拡大をはかり計画を達成した。今後は保安指導の強化と環境変化に対応した事業体制構築をすすめる。
3. 自動車取扱台数の確保			
取扱台数	2,700台	2,430台	営農車を中心に推進施策を展開し取扱台数確保に努めた。30年度は、スズキ車の新規取扱いにより、県域結集をはかる。
4. SS協同経営販売数量の確保			
販売数量	93,000㎩	97,576㎩	統一・独自供給促進に取り組み燃料供給計画数量を達成した。今後も拡販施策を実施し数量確保に取り組む。
5. 宅配おまかせ会員戸数の維持			
会員戸数	7,350戸	6,710戸	利用者は高齢化に伴い減少傾向となった。30年度は戸数確保と収支改善に向けてJ Aと連携し課題の解決に取り組む。
6. 家庭薬配置戸数の確保			
配置戸数	93,000戸	87,964戸	高齢化と小世帯化に伴い配置戸数は減少となった。コンプライアンスの徹底をはかるとともに、配置の確保とJ Aと連携して推進を行う。
7. セレモニー県域施行件数の確保			
施行件数	3,500件	4,000件	小規模化への対応による件数確保と墓所清掃・布団供養等の新規事業の取り組みを開始した。今後も環境変化に対応した取り組みをすすめる。

生産販売部

平成30年度 生産販売部事業方針

事業環境と課題

生産基盤の脆弱化や気象変動により、国内農業の生産力は低下しています。その中で、気象・地理的条件に優れる本県は、高品質な農産物総合供給産地として市場から大きな期待をされています。県内の一部では経営規模の拡大や法人化の進展が見られますが、総合的には生産者高齢化等による生産力低下が目立ち、その維持のためには農業所得の向上が急務となっています。

一方、消費動向は、中食や個食への変化が進み、簡便性や経済性の追求や、健康・安全志向の高まりもあり、用途に合致した多様な原料や商品の生産対応が求められています。流通実態は卸売市場経由が大宗を占めますが、卸売市場法の改変や、食品産業全般にわたる企業の新規参入・グループ化が進み、新たな従来の枠組みを超えた展開が始まっています。適正な労働や法令順守による

輸送コストの上昇や、国際競争の激化等による資材コストの上昇が顕著であり、効率的な生産・物流体制への改革が求められています。

事業推進方針

前述した課題に対し、次の7点について取り組みます。

(1) 生産基盤の強化や共販率の向上のため、機械化・施設化の推進や多収穫省力栽培の導入と、営業拠点の情報に基づく販売ルートや条件を明確にした生産販売企画提案を行います。

(2) 苗木・種苗・種圃の供給体制を広域的に見直し、需要に応じた優良で経済性の高い生産供給が可能となるように整備します。

(3) 機能の高い卸売会社や重点実需者への営業強化、契約的取引の充実、販売支援への傾注により、信頼関係の強化を図り、総合品目供給の拡大と事業連携を進めます。

(4) リパック・カット・一次加工・保管等の機能のある取引先との連携を強化し、用途別生産供給体制による原料安定供給と高付加価値販売を行い、生産者所得の向上を目指す。

(5) J Aと連携し、広域集荷販売体制の構築をモデル的に実施します。また、輸送情勢の悪化に対応するため、広域的な視野で物流の効率化を図る体制構築を進めます。

(6) 米政策転換に対応し、実需者への直接営業の強化、一部銘柄の県本部買取り実施と県共計の早期精算により所得向上を図ります。

(7) 価格メリットの高い果実や、取引先と連携した高付加価値米など、継続的に所得向上がはかれる輸出取引に取り組めます。

平成30年度総供給販売高計画

単位千円 %

		30年計画	29年計画	29年実績	28年実績	対 比		
						29年計画	29年実績	28年実績
米	穀	19,252,000	19,150,000	19,746,741	17,464,817	101%	98%	110%
果	実	35,610,000	35,460,000	34,511,674	35,632,147	100%	103%	100%
野 菜	花 き	65,718,000	65,475,000	59,849,305	69,274,508	100%	110%	95%
き の こ		23,500,000	24,300,000	21,150,546	22,071,166	97%	111%	106%
営 業		15,500,000	15,000,000	13,751,905	14,269,603	103%	113%	109%
種苗センター		220,000	215,000	220,076	222,034	102%	100%	99%
合 計		159,800,000	159,600,000	149,230,247	158,934,275	100%	107%	101%

畜産酪農部

平成30年度 畜産酪農部取り組み方針



県外での評価も高い
信州プレミアム牛肉

長野県内の畜産酪農品は、「信州産」の名前の下、「信州プレミアム牛肉」「信州アルプス牛」「信州ポーク」「農協牛乳」「信州産鶏卵」として県内外の量販店からその品質に高い評価を得ています。しかし、生産を取り巻く環境は、高齢化や労働力不足に加え、TPP11や日欧EPAなどを見据えた輸入品の増加による市場価格低下などで年々その厳しさを増しています。

このような状況の中、畜産酪農部では、30年度事業計画必達を目指し、以下のとおり事業に取り組んで参ります。

- (1) 畜産酪農生産基盤の維持と販売数量確保
 - ① 空舎利用による補完的生産事業の検討
 - ② 県外素子豚の確保と肥育事業の安定経営
 - ③ 導入奨励施策による基盤の維持確保

(2) 信州産ブランドの販売強化と生産性向上による農業所得の増大

- ① 信州ブランド畜産酪農品の県内外での販売促進
 - ② 生産性向上巡回の継続実施ならびに農場HACCP等の取り組み啓蒙
 - ③ 飼料用米の利用によるコスト低減
- (3) 県本部生産農場の機能充実と経営収支の改善
- ① 三岳牧場／場内育成子牛の肥育事業、預託頭数の拡大、飼料コストの削減
 - ② ハケ岳牧場／効率的な搾乳頭数の維持、販売育成牛の増頭
 - ③ SPF豚繁殖センター／繁殖成績向上による販売子豚頭数の確保
 - (4) JAと一体的な営農指導体制の強化
 - (5) 県内食肉処理施設の将来展望協議
- 全国の畜産酪農事業は、大型化・企業化が進んでいます。プロイラーや採卵鶏はかなり前からインテグ



当県本部が運営する木曾家畜市場

レーション（企業が飼料供給や農場運営、生産加工、販売、流通などを一貫して運営する）で規模を拡大してきました。今や、乳肉複合メガファーム（搾乳とEIT技術による和子牛生産、肥育を一貫して行う大規模農場）といった農場も出現しています。そこには莫大な資本と企業の

な運営が必要となります。それに対抗して長野県の多くを占める農家経営では、高い飼養管理技術で、高品質なものを生産し、特色ある販売をしていく、これをJAグループとしてどう推し進めるか、ここが大きな課題です。



オレンジ色のパッケージで
お馴染みの農協牛乳



信州ボークのキャラクター（左から）ポッキー、リッキー、ピッキー

燃料・ホーム
エネルギー課平成30年度
農業生産用燃料（軽油）
支援対策の実施について

全長野県本部はJAと一体となつて担い手農家等を支援し、生産基盤の維持・拡大と利用向上を図るため、「自己改革強化策」に基づき春夏期の軽油について特別対策を実施します。

具体的には、平成30年5～9月の期間において、農業生産用としてJAから担い手生産農家・生産部会等へ配達供給する軽油を対象に、県本部からJAに対し助成をします。

JAにおいては、県本部の対策に加えてJA独自の対策を上乗せした配達供給価格を設定し、JAの使命として求められている「安定・安価な農業生産用燃料の供給」への対応をしていきます。

あわせて、さらなる農業生産コスト低減に向けて免税軽油制度の利用促進PRを行っていきます。



免税軽油とは

・軽油には、1リットルにつき32.1円の軽油引取税が含まれています。この軽油引取税が一定の要件のもとに免除されている軽油のことを免税軽油といいます。

・農業を営む者（農作業のうち基幹的な作業の全ての委託を受けて農作業を行う者を含む）が、特定の用途に使用する場合に限って、免税軽油を使用することができます。

協同経営SS
新人スタッフ研修会

協同経営SS新人スタッフ研修会がはじまりました。新人スタッフ研修とは、SS勤務1年未満のスタッフを対象とし、SSで働く為の基礎知識を習得する大切な時間です。

座学ではSSを取り巻く環境や事業コンセプト、勤務マニュアルの理解、実技では笑顔・立ち振る舞い、ドライブウェイサービスなど短時間ですが中身の濃い研修です。平成30年度も27名のスタッフが参加しました。

「期待される人材から、任せられる人材になろう！」
「言動は自身の心、気持ちの現われ！」

SS勤務をする上での心得や社会人としての自覚など、講師の話に対し真剣な眼差しで耳を傾けていました。

全国約30,000ヶ所のSSがある中、接客やサービスの差はありません。だからこそ感謝の気持ちを持つて、組合員様やお客様と接し、他SSとの差別化を図る必要があります。

今回受講した27名のスタッフがフレッシュな風を運び、新しい協同経営SSの未来を築く「人財」となるでしょう。

様々な研修会を開催し、多くのProfessional Humanを輩出します。日本一のSSになる為に！



新設の京都市中央食肉市場で 「信州和牛枝肉共励会」開催

（4等級以上比率が9割超）

全農長野県本部畜産課は4月16日(月)、京都市中央食肉市場において、第30回信州和牛枝肉共励会を開催しました。この市場は、京都市が約4年の歳月を掛け、世界最高水準の衛生管理ができる施設として3月に竣工したばかりです。

当日は、県内各地から選りすぐりの信州和牛39頭を上場しました。セリ販売に先立ち枝肉の審査も行い、最優秀賞にはJ Aみなみ信州・吉川俊男さんの去勢牛が選ばれました。27ヶ月齢と和牛としては少し若い牛でしたが、枝肉重量は654・1kg、ロース芯面積106㎡と充分な大きさ。霜降り度合いを示すBMSナンバーは12と最高の評価でした。その後のセリでは高評価を反映し、3,805円/kgで落札、1頭で248万円余りの売上となりました。全体的には4等級以上比率が9割を超える優秀な枝肉が揃い、買参人の方々からも「信州は



いいものを揃える」とお褒めの言葉をいただきました。

信州プレミアム牛肉の認知度も、販促DVDの配布やKBS京都でのテレビCM放映効果もあり高まっていますが、今後はこの新市場でも更なる向上が図れるよう定時定量定品質出荷に取り組みます。



新装成ったセリ場は、枝肉冷蔵庫とガラスで仕切られ、衛生状態を保ちながらセリを行います

県産農畜産物で 御嶽海関を応援

全農長野県本部は御嶽海関の5月場所の活躍を祈念し、長野県産農畜産物を贈呈しました。贈呈品は、信州プレミアム牛肉、信州ポーク、飲むヨーグルト、たまご、えのきたけ、ぶなしめじ、御嶽ぶなしめじ、なめこの計100kg。5月9日(水)の贈呈式で御嶽海関は、「おいしい信州の農畜産物を力に換えて、がんばります」と健闘を誓いました。



贈呈品の目録を読む小林県本部長

長野県体育協会に 長野米3トンなどを寄贈

全農長野県本部生産販売部は、県内青少年スポーツ選手強化に役立ててもらおうと、長野米コシヒカリなどを（公財）長野県体育協会に寄贈しました。

寄贈したのは長野米コシヒカリ3トン、信州りんごジュース3,000本、ふるさとのなめ草茶漬け1,500本。県体育協会は、木曽少年相撲クラブ、上田西高校レスリング部、飯山高校スキー部など、全国をはじめ各種大会で活躍している県内の12団体に分けられます。

4月26日(休)の贈呈式で、当県本部の畠田武司副本部長が県体育協会の林泰章理事長に目録を手渡しました。畠田副本部長が「長野県に關係する選手が世界で活躍する土台作りを食で応援できるよう、今後も精一杯協力したい」と激励すると、林理事長は「心温まるご支援がありがとうございます。皆様の期待に応えられるよう、協会として選手の活躍に尽力します」と感謝しました。



寄贈のお礼をのべる県体協の林理事長

小学生の卓球大会 に副賞提供

（全農杯 全日本卓球選手権大会）

全農は、「全農杯 平成30年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カップ・バンビの部）」に特別協賛しており、各県大会で副賞提供をしています。

5月13日(日)に東御市で開催された長野県大会には、長野県卓球連盟に登録している小学生151名が出場し、ホープス（5～6年生）・カップ（3～4年生）・バンビ（2年生以下）の部に分かれて日頃の練習の成果を競いました。入賞すると1位が信州アルプス牛、2位が信州ポーク、3位と4位がきのこセット（3



位4位の決定戦なし）がもらえるとあつて、応援する保護者の皆さんの力も入り、会場は熱気に包まれました。

小学生のサッカー大会 副賞に長野米を提供

全農長野県本部米穀課は、県内の小学生サッカーチームが競う「第17回チラペルトカップ長野県少年サッカー大会」の副賞として、長野県産コシヒカリ72袋を提供しました。

5月13日(日)に松本市のかりがねサッカー場で準決勝と決勝が行われ、95チームの中から勝ち進んだ上位4チームが長野県産コシヒカリを受け取りました。副賞が紹介されると子ども達よりも保護者から歓声が上がり、良い母の日のプレゼントとなりました。



2連覇した松本山雅FCU-12の選手
(左は当県本部中信事業所 浅香久寿所長)

6月の動き▶

総合企画部	グループ会社提示株主総会	
	6/18(月)	㈱長野県食肉公社
	6/22(金)	㈱全農長野計算センター ㈱JAアグリエール長野 ㈱マイパール長野 ㈱ジェイエイオート長野 長野県農協直販㈱ ㈱長野エーコープサプライ
総務広報課	6/29(金)	㈱長野県A・コープ (一社) 長野県農村工業研究所
	6/3(日)	松本山雅FCホームゲームイベント (牛乳PR) アルウィン (松本市)
生産販売企画課・野菜花き課	6/23(土)	松本山雅FCホームゲームイベント (農畜産物PR) アルウィン (松本市)
	6/15(金)～17(日)	長野県長寿食堂 ブロッコリーPR 長野市・駅ビル3階「長野県長寿食堂」
	6/22(金)～24(日)	長野県長寿食堂 レタスPR 長野市・駅ビル3階「長野県長寿食堂」
野菜花き課	6/29(金)～7/1(日)	長野県長寿食堂 リーフレタス・サニーレタスPR 長野市・駅ビル3階「長野県長寿食堂」
	実施中～6/14(木)	信州春野菜でらくらくレシピ キャンペーン
酪農課	6/14(木)～8/9(木)	信州夏野菜でらくらくレシピ キャンペーン
	6/30(土)	牛乳セミナー 南箕輪村村民センター

6月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容 (予定)
6/5(㉔) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	6/3牛乳月間イベントの様子
6/12(㉔) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	インターバル速歩と牛乳 (信州大学能勢博教授出演)
6/19(㉔) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	乳和食レシピ紹介
6/26(㉔) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ

JA全農長野の事業現況▶

平成30年度4月末部門別実績表 (単位:百万円,%)				
部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	1,434	91	95
果	実	53	110	139
野菜花き		681	92	118
野菜種苗センター		35	96	94
きのこ		988	76	83
営業		302	85	98
生産販売部計		3,493	86	95
包装資材		383	92	82
生産資材		1,794	107	105
農業機械		658	120	110
施設住宅		277	221	69
生産購買部計		3,111	113	98
畜産		1,362	103	90
三岳牧場		34	107	77
SPF繁殖センター		25	103	138
酪農		1,098	104	99
八ヶ岳牧場		19	73	88
畜産酪農部計		2,539	103	93
燃料・ホームエネルギー		2,101	121	101
SS協同経営		1,030	121	105
生活		967	96	89
生活部計		4,097	114	99
長野県本部計		13,240	103	97

(内部販売高含む)

新採用職員紹介

【管理部 経理課 戸澤 秀太】

はじめまして。経理課の戸澤秀太と申します。長野市出身の22歳、マイブームはポケモンGOです。やっとミュウツーをゲットすることができました。経理課に配属されて1ヶ月が経ちましたが、毎日が勉強で、学ぶことが多い日々を過ごしています。早く戦力になれるよう努力していきます。よろしくお願いいたします。



電卓とそろばんの二刀流でがんばります

【生産販売部 米穀課 成田 暁】

はじめまして。米穀課の成田と申します。長野市出身です。長野県で農・食に関わる仕事がしたいと思い、入会しました。学生時代は山形県の米どころ庄内地方で稲作について学びました。この度は地元長野県のお米に関わる仕事ができることを大変嬉しく思っています。長野県の農業の維持・発展に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



長野県体育協会寄贈式にて

A-Board

2019年(平成31年)1～12月号

「信州の果実」表紙写真を募集中!

全農長野県本部が発行している園芸情報誌「信州の果実」では、表紙の写真を募集中です。長野県内の果実に関わる写真をお持ちの皆様、ご応募をお待ちしています。

- 写真内容・・・長野県内の果実に関わる風景、農作業、行事、料理など
(1) 撮影場所、撮影者名、撮影者住所、写真のコメント (400字以内) を添えてください。
(2) デジタル作品、カラー、2MB以上、応募点数の上限はありません。
(3) 未発表のものに限ります。
(4) 作品の著作権は撮影者に帰属しますが、撮影者は作品が「信州の果実」表紙に使用されることを承諾するものとします。
- 応募資格・・・何よりも、果実と長野県に興味がある方。
職業・年齢・住所は問いません (どなたでもご応募いただけます)。
- 使用対価・・・無償でお願いします。
- 応募および問合せ先
JA長野県営農センター (担当:近藤)
〒380-8614 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
TEL.026-236-2020 FAX.026-236-2023
E-mail kondou-tooru-z@zennoh.or.jp



▶詳しくは

JA長野県営農センター

検索

編集後記

今年は、季節の進み方が早く農作業も前倒しの方が多いそうです(私の家もそうです)。また日中30度近くなる日があり、翌日は10℃以下がったりと、気温差の大きい日も多いです。寒暖差や気圧の乱れは、疲れや体調など人の身体にも大きな影響があるそうです。農作業などが急に忙しくなると体力も消耗します。風邪や病気になるないように充分注意が必要です。

私は体調管理として、「朝食」をしっかりとする事に心掛けています。昔はとらない事も多かったですが、最近は意識して朝食を抜かないように気をつけてます。1日のエネルギーの素ですし、寝ている間に下がった体温を高める効果があります。

皆さんも、寒暖差などに負けず、栄養をしっかり取り日々の農作業やお仕事頑張りましょう。

(K)

牛乳と減塩で美味しく健康的な食生活

ミルクマガジン

牛乳 セミナー

今日からはじめる乳和食

日時

2018年
6/30 土

13:30~16:00 [開場12:30]

場所

**南箕輪村
村民センター**

上伊那郡南箕輪村南殿4825-1(南箕輪村役場内)

入場無料【先着200名】

要事前申込

会場案内図



基調講演

演題

乳和食

牛乳で美味しく減塩

講師

小山 浩子氏 (料理家・管理栄養士)



大手食品メーカー勤務を経て2003年フリーに。出張スタイルの料理教室を立ち上げ、コーディネート講師として活動。ミルクを使った料理レシピの研究・開発に20年以上取り組む。現在は100会場以上の講演と出張料理教室、企業のメニュー開発、雑誌へのレシピ提供、栄養コラム執筆、テレビ出演等幅広く活動し、「ミルクのある暮らし」を提唱している。著作も多数あり、「目からウロコのおいしい減塩「乳和食」」(社会保険出版社)で2014年グルマン世界料理本大賞イノベティブ部門世界第2位を受賞。健康と作りやすさに配慮したオリジナルレシピにファンも多い。2015年1月、日本高血圧協会理事に就任。メディアで話題の乳和食の開発者でもある。

「いつもの料理」+「牛乳」のカンタンメニュー

ご家庭で簡単にできる「乳和食」を小山先生が料理実演

料理実演



ミルク肉じゃが



ミルク天ぷら



ミルクつけつゆ

総合司会

SBC信越放送
生田 明子
アナウンサー

「情報わんさか GO!GO!ワイド
らじおカン」(月曜・火曜・水曜)
「歌のない歌謡曲」
「サンデーミュージックBOX」



イベント

県内各地の牛乳や
ヨーグルト等の
試飲&試食

アトラクション

クイズに答えてプレゼントをゲット!!



申込方法

FAXまたは郵送での申込となります。住所・氏名(代表者)、年齢、性別、電話番号、参加人数をご記入の上、下記宛までお申込ください。代表者様宛に入場券を送付いたします。
 ※定員になり次第申込を締め切らせていただきます。※ハガキでの申込の場合はハガキの裏面に上記の項目に付いてご記入ください。(様式不問) ※ご応募いただいた「個人情報」は、本セミナーの発送作業以外に使用いたしません。

お問い合わせ先

JA全農長野 酪農課 〒380-8614 長野市南長野北石堂町1177-3
☎026-236-2382 FAX.026-236-2387
 (月~金9:00~16:00) 担当/神田、中山

JA全農長野 検索



主催



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

／長野県牛乳普及協会／長野県生乳生産販売委員会



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

